



保健の授業で育成される資質・能力に関する一考察 -指導者の指導観と生徒の記述に着目して-

○丸山 実花（お茶の水女子大学附属高等学校）、佐藤 健太（フランクフルト日本人国際学校・東京学芸大学先端教育人材育成推進機構）

背景

- お茶の水女子大学コンピテンシー育成開発研究所（以下ICD）のICDコンピテンシー（表1）の設定
- 佐藤(2023)より、保健の授業を通してICDコンピテンシーが育まれる機会がA,Gが多く、B,F,H,Jが少ない

表1 ICDコンピテンシー

ICD	名称	説明
A	批判的思考力	自分の意見や考えを、意識的に見直す力 自分の意見とは違う様々な意見を検討したり、意見に確かな根拠があるかを考えること
B	協働性	個人では得がたい成果をグループ全体で得るために、役割分担したり、助け合ったりすること
C	創造的思考力	新たな価値や優れた考えを生み出す力
D	他者理解	様々な他者の立場や考え方を推測したり、理解したりすること
E	問題解決力	実際に起きた問題で、解決の道筋が明らかでないものを改善・解決できる力
F	対人的問題解決力 (対人葛藤解決力)	他者との意見や価値観の対立を解決すること 他者とのトラブルを、お互いの立場を考慮して(win-winで)解決すること
G	省察的思考力	自らの活動を振り返って気づきを得る力
H	自己制御	望ましい目標を追求し、比較的望ましくない目標追求を抑制する力 よいことをして、よくないことをしないようにする力
I	内的統制感	自分自身の行動がある成果や結果をもたらすという期待 自分でも頑張れば、様々な成果が得られるという感覚
J	エージェンシー	社会に変革を起こす力。社会の一員として、社会がより良くなるよう考え、行動していくこと

目的

保健の授業で資質・能力を育成する取り組みや機会の検討
◆生徒からみた保健の授業を通して育成されたコンピテンシーを明らかにする

方法

対象 高校1年生女子126名
期間 2023年3月
形式 質問紙調査（記述）
内容 1年間の保健の授業を振り返り、身についたものや意識したものについてICDコンピテンシーごとに記述

分析

生徒の記述内容を学習活動ごとに分類し佐藤(2023)と比較

次のキーワードについて、今年度の保健の授業で身についたものや意識したことがあれば、教えてください。
※複数箇所にも記入しても構いません。※埋まらないところが出て構いません。

ICD	記述内容
A	自分の意見や考えを、意識的に見直す力。自分の意見とは違う様々な意見を検討したり、意見に確かな根拠があるかを考えること。
B	個人では得がたい成果をグループ全体で得るために、役割分担したり、助け合ったりすること。
C	新たな価値や優れた考えを生み出す力。
D	様々な他者の立場や考え方を推測したり、理解したりすること。
E	実際に起きた問題で、解決の道筋が明らかでないものを改善・解決できる力。
F	他者との意見や価値観の対立を解決すること。他者とのトラブルを、お互いの立場を考慮して(win-winで)解決すること。
G	自らの活動を振り返って気づきを得る力。
H	望ましい目標を追求し、比較的望ましくない目標追求を抑制する力。よいことをして、よくないことをしないようにする力。
I	自分自身の行動がある成果や結果をもたらすという期待。自分でも頑張れば、様々な成果が得られるという感覚。
J	社会に変革を起こす力。社会の一員として、社会がより良くなるよう考え、行動していくこと。

授業概要（抜粋）



図1 ヘルススピーチ

1人2分間、自分の興味のある保健・体育に関する内容についてスピーチする。1授業2名。スピーチ後に質疑応答、生徒同士で感想の共有、教師からの補足・問いかけなどの時間を設けている。



図2 レポート発表会

夏休み中に自分の身体（カラダ）を用いて実験したレポートを持ち寄り、グループで発表、代表者を選出、さらにクラス発表でクラス代表を決定する。優秀なものを学校の生徒会誌に掲載する。

詳細など下記データベースを参照ください。

お茶の水女子大学附属学校園
教材・論文データベース

<https://kyozai-db.fz.ocha.ac.jp/>

お茶大附属 教材DB

授業に役立つ!

結果・考察

表2 生徒からみた保健の授業を通してICDコンピテンシーが育まれた機会
●:合致 ○:教員のみ △:生徒のみ

	ICDコンピテンシー									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
ヘルススピーチ	●	△	△	●	△	△	●	△	△	
スクラップノート	○						○		○	●
人体実験レポート	△	△	●	△	●	△	●	●	●	
レポート発表会	●		△	●	△		●	○		
冬休み課題レポート	●	△	●	△	●		●	△	●	△
グループ発表	●	●	●	●	●	●	●	△	●	△
定期考査	●		○		△		△	△	●	
授業内容	授業, スピーチ感想, 意見交換	調べ学習	授業, 意見交換, 講演	授業, 意見交換	授業, 小レポート, 講演, 振り返り	ディベート	授業, 意見交換, 小レポート, 振り返り	情報収集, その後	小レポート, 振り返り, その後	授業, 意見交換, その後
	(ア)	△	△	△		△				
	(ウ)	△		△	△			△	△	△
	(エ)	△		△	△	△	△		△	△
	(オ)			△		△			△	△
	(イ)	△		△						△

※学習内容: (1)現代社会と健康 (ア)健康の考え方 (イ)現代の感染症とその予防 (ウ)生活習慣病などの予防と回復 (エ)喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康 (オ)精神疾患の予防と回復 (2)安全な社会生活 (ア)安全な社会づくり (イ)応急手当

■A・Gの育成機会が多い

-振り返り・見直し・改善のサイクル

-睡眠小レポート ①科学的根拠 → ②行動変容

した方が良い行動はわかっていたが(略)、した方が良いと知らずにいたところもあったので、知ること大事だなと今回思った。

-自分の考えを他者と交換する

-ヘルススピーチ後の感想共有・問いかけ(図3)

意見を共有し、話題に対する根拠を学ぶことでスピーチを聞く前と後とで自分の考えを更新した。ペアでお互い違う意見を持っていることも多く、自分の意見を客観的に見直す良い機会になった。

-レポート共有

-1授業の会話: 20回前後促す

-がん教育の掲示(図4)

■B・Fは教員と生徒で合致

-グループ発表の効果(図5)

グループ発表では、各自が興味のあることをそれぞれ調査してきたので1人1人が深く考察していて、自分にはなかった視点も知ることが出来た。関心がそれぞれ違うことはグループワークの強みだと感じた。

■H・Jは教員の想定より生徒が多く回答

-H: 夜のおやつやスマホは保健の授業で良くないことが明確化されて、制御につながった。

時間を意識して取り組むことで無駄なことを行わないようにしました。特に調べ物をするときは(略)自分はどんな情報が欲しいか明確にし、いつになったら終わりにするとタイムリミットを設けることで無駄なことをしないよう心がけました。

-J: 1年を通して様々な視点から保健について学んだことで、知識が身につくニュースで知っている単語を見かけることが多くなった。その際に、習った知識を活かしてこれは〜したほうがよいのではないかなど、自分の意見を持ちながら社会問題と向き合う力が身についた。



図3 感想共有

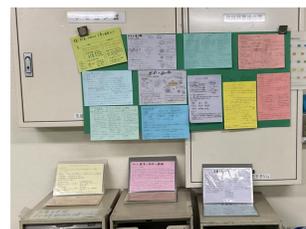


図4 がん教育掲示



図5 グループ発表(準備)

まとめ

- 保健の内容自体が資質・能力に働きかける力を持つ
- 自己を表し、共有する時間を多くとることは、資質・能力の育成へ寄与する可能性が大きい
- グループ発表活動は多様な資質・能力育成の機会になりやすい

主な参考文献

佐藤健太(2023)コンピテンシー・ベースにおける保健で伸ばすべき資質・能力とは - 10年の歩みを振り返って - お茶の水女子大学附属高等学校研究紀要68.67-82